

鎌ヶ谷市施策評価表(事後)

施策の名称	132生きる力を育てる義務教育の充実		
施策のねらい(めざす姿)	良好な学習環境の中で、児童・生徒がたくましく生きる力を身につけています。		
基本目標	1「健康で生きがいのある福祉・学習都市」をめざして	施策担当マネージャー	生涯学習部次長
政策	13人間性豊かな子どもの育成環境をつくります	マネージャー氏名	小松崎 佳之

I 改革・改善内容(=施策をより良く実施するための方策)

①前回の評価で掲げた内容	引き続き特別な支援が必要な児童生徒の対応をするため、専門職員の配置を継続する。また、良好な学習環境の実現を図るため、小中学校のトイレ改修を国の財源を有効に活用しながら計画的に順次実施するとともに、老朽化が進んでいる楽器の更新を行っていく。	③改革・改善内容	引き続き特別な支援が必要な児童生徒の対応をするため、専門職員の配置を継続する。
②①に基づく取り組み結果	特別な支援が必要な児童生徒への対応のため専門職員の配置、心理発達相談員の巡回相談を実施するとともに、「いじめ防止基本方針」を策定した。また、小中学校のトイレ改修工事及び楽器更新を行った。		

II 施策の目的・概要

①目的	対象	市内小中学校の児童生徒及び教職員並びに学校施設	意図(対象をどうするのか)	安全安心で良好な学習環境の中で、教職員が新たな学習課題に応じた高い専門性を身につけるとともに、幅広い視野と社会性を兼ね備えて指導にあたり、児童生徒がたくましく生きる力を身につける。
②施策の概要	学校施設の改修や、少人数教育、特別支援教育、情報教育などを推進し、児童生徒の良好な学習環境の実現を目指す。また、研修会や学力調査の実施などにより、専門性と指導力を備えた教職員の育成を図る。			
③環境分析(状況変化や今後の見込み・市民意向など)	特別な支援が必要な児童生徒への対応は多様化しており、個々のニーズに応じたきめ細やかな支援体制づくりが求められている。			

III 事務事業の成果やコストの状況

①令和元年度～2年度の施策の成果	少人数教育指導教員、特別支援教育推進指導教員、図書館司書を全ての小中学校に継続して配置した。						
②施策成果指標	指標名称		単位	平成30年度	令和元年度	令和2年度	目標値(2年度)
	i	少人数指導教員配置数	人	14	14	14	14
	ii	特別支援教育推進指導教員配置数	人	17	17	17	17
	iii	不登校児童生徒出現率	%	1.5	1.3	1.2	0.5
③基本事業成果指標	iv	義務教育施設耐震化率	%	100.0	100.0	100.0	100.0
	i	特別支援教育推進指導教員配置数	人	17	17	17	17
	ii	学校支援ボランティア数	人	656	530	472	現状維持
	iii	学校図書館図書標準達成校	校	6	11	13	13
	iv	教職員研修受講割合	%	100	100	100	100
	v	改修済み施設数	%	100	100	100	100
	vi	小中学校トイレ洋式化率	%	69	77	84	76
	vii	スクールカウンセラー相談件数	件	1,522	1,491	1,861	減少
④施策の事業費	令和元年度決算	令和2年度決算	市民一人あたり事業費(2年度決算)		令和3年度予算		
	事業費(千円)	1,603,685	2,411,192	(単位:円) 22,038 円		2,560,059	

IV 評価・検討

①課題(目的に対する現状など)	指標のうち、不登校児童生徒出現率については、横ばい状態となっており、この指標の改善に向け相談体制の充実をしてきたが、さらなる対策が必要である。		
②総合評価	3一部未達成	③総合評価の理由	新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、校内に入る人材の制限を行ったり、新たな教育課題対応のため、相談件数が増えたことによるもの。

V 今後の方向性

①施策の方向性	→維持
②上記方向性の説明	施設の改修については引き続き計画的に実施するとともに、不登校児童生徒への対応、いじめ防止に力を注ぐ必要があるため。
③特に重点化する事務事業	義務教育施設維持補修事業